

作成: 芝崎

64. 家族篇: 両親の会話から勘違いした思い出/思いこみは勘違いのもと

- (1) 私が小学生の頃、両親の会話で何度も「よナゴ」という言葉がでてくる。何だろうと気になる。食べ物のアナゴ、イナゴではなく、やっぱり、「よなご」で、地名のようになんとなく感じた。
- (2) 偶々地理の勉強の中で、「米子(よなご)」: 鳥取県の市名があり、これだと思いこむ。父は鉱山技師で鳥取にも鉱山があるし、この近辺にいたのだろうと想定した。
- (3) 時が立ち、私の就職先が決まり、「米子」方面に近い広島に決まったよと両親に伝えると、「えっ?」父母共に驚く表情、実は「米子」は長野県の須坂から 14K 先の山中にあった「米子鉱山」のことだった。純度の高い硫黄を算出し、マッチの材料で当時の輸出品の一つだったようだ。1973 年には全面閉山なり、跡地には立て札があるだけで何も無い状況のようだ。
- (4) もちろん私も驚く、さらに両親の会話から「よなご」の出てきた話は私に起因した話だったので、再一再二驚く。その当時私が 2 歳ごろその「よなご」で迷子になり、近所のみんなで探し、大騒ぎになったらしく当時のことは両親にとってはインパクト大で、でも私は何も覚えていない……

よ: 予(よ)期せぬ話だった、まさに思いこみによる勘違い

な: (な)んとさらに私自身が起因した話で驚くばかり

ご: 誤(ご)解から思いがけない事実判明……喜怒哀楽が混じり 3 人でおおいに談笑!!



米子鉱山跡地の周りは風光明媚な場所で、両親が健全な時に一度訪問みたいと思った。でも両親にとって、忘れられない思い出の場所あるだけでいいような気がした。もう何も無いし、知っている人もいない。寂しいけど、鉱物の無くなった鉱山の街の末路かもしれない。



鉱山跡地からは妙高戸隠の山々も望むことができる。

以上